



厚生労働大臣

殿

川崎医科大学附属病院  
学校法人 川崎学園  
理事長 川崎明



特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	67.4人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	353人	9人	354.6人	看護業務補助	104人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	1人	5.2人	理学療法士	26人	臨床検査技師	90人
薬剤師	45人	0人	48.0人	作業療法士	22人	衛生検査技師	0人
保健師	5人	0人	5.0人	視能訓練士	10人	検査 その他	0人
助産師	7人	2人	8.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	605人	10人	611.5人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	4人	0人	4.0人	栄養士	4人	その他の技術員	19人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員	129人
管理栄養士	28人	0人	28.0人	診療放射線技師	39人	その他の職員	38人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により勤務換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。  
それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者数及び外来患者数の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	640.1人	8.0人	648.2人
1日当たり平均外来患者数	1,316.9人	50.2人	1,367.1人
1日当たり平均調剤数	2,935.8		剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄には、それ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下を含む）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ <sup>31</sup> P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケカルシト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自家液体室索処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験（CD-DST法）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・中枢神経蛋白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞（CD34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げられていないものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ ベーチェット病	64 人	・ モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	22 人
・ 多発性硬化症	34 人	・ ウェグナー肉芽腫症	1 人
・ 重症筋無力症	50 人	・ 突発性拡張型(うっ血型)心筋症	21 人
・ 全身性エリテマトーデス	212 人	・ 多系統萎縮症	17 人
・ スモン	7 人	・ 表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2 人
・ 再生不良性貧血	37 人	・ 膿疱性乾癬	3 人
・ サルコイドーシス	29 人	・ 広範脊柱管狭窄症	7 人
・ 筋萎縮性側索硬化症	15 人	・ 原発性胆汁性肝硬変	35 人
・ 強皮症、皮膚筋炎および多発性筋炎	187 人	・ 重症急性膵炎	12 人
・ 特発性血小板減少性紫斑病	85 人	・ 特発性大腿骨頭壊死症	29 人
・ 結節性動脈周囲炎	41 人	・ 混合性結合組織病	18 人
・ 潰瘍性大腸炎	156 人	・ 原発性免疫不全症候群	7 人
・ 大動脈炎症候群	26 人	・ 特発性間質性肺炎	3 人
・ ビュルガー病	76 人	・ 網膜色素変性症	15 人
・ 天疱瘡	20 人	・ プリオン病	0 人
・ 脊椎小脳変性症	41 人	・ 原発性肺高血圧症	4 人
・ クロウン病	120 人	・ 神経繊維腫症	6 人
・ 難知性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・ 亜急性硬化性全脳炎	1 人
・ 悪性関節リウマチ	8 人	・ バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・ パーキンソン病関連疾患	119 人	・ 特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2 人
・ アミロイドーシス	2 人	・ ラインゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0 人
・ 後縦靭帯骨化症	32 人	・ 副腎白質ジストロフィー	0 人
・ ハンチントン病	4 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会 1か月 10回程度 臨床部門と臨床検査部門との症例検討会 1か月 17回程度		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	60 例	剖検率 11.5 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
骨格筋増殖抑制因子myostatinの活性阻害による筋ジストロフィー治療薬の開発	砂田 芳秀	神経内科	2,400 万円	補委 厚生労働省
筋ジストロフィーおよびその関連する疾患の病態生理の解明と治療薬物の開発に関する研究	砂田 芳秀	神経内科	250 万円	補委 厚生労働省
腹膜障害と細胞老化について中皮細胞におけるSirt1の働き	藤本 壮八	腎臓・リウマチ内科	40 万円	補委 腹膜機能リサーチ研究助成
加齢による腎障害進展の分子メカニズムの解析	大関 正仁	腎臓・リウマチ内科	30 万円	補委 第7回腎不全病態治療研究会会長賞
メタボリックシンドロームにおける血管内皮機能障害及び腎障害の機序解明と治療法の開発	柏原 直樹	腎臓・リウマチ内科	30 万円	補委 両備櫻園記念財団研究助成
乳癌術後補助化学療法におけるエストロゲン低下の影響とその対策に関する研究	園尾 博司	乳腺甲状腺外科	110 万円	補委 厚生労働省がん研究助成金
日本乳癌学会特別国際プロジェクト研究「Comparison of clinicopathological characteristics of breast cancer among different countries and geographical area」	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	200 万円	補委 中間法人日本乳癌学会
再発頭頸部癌に対するホウ素中性子捕捉療法	粟飯原 輝人	耳鼻咽喉科	30 万円	補委 岡山県医師会
粥状硬化性機序による難治性脳梗塞の診断・治療・予防に関する研究	木村 和美	脳卒中医学	200 万円	補委 循環器病研究費
特発性造血障害に関する調査研究	通山 薫	検査診断学(病態解析)	100 万円	補委 厚生労働省

計 10

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 10

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内科専門医会誌 18(2) : 407-412, '06	突発性好酸球増多症候群に対するメシル酸イマチニブの維持療法	和田秀穂	内科学(血液)
Haematologica 91(5) : 613-619, '06	The mechanisms of vitamin K2-induced apoptosis of myeloma cells.	Wada H	〃
Am J Hematol 81(7) : 560-561, '06	Implantable cardioverter defibrillator therapy in a patient with cardiac amyloidosis.	Wada H	〃
Anticancer Research 26 : 4115-4124, '06	Trail expression up-regulated by interferon- $\gamma$ via phosphorylation of STAT1 induces myeloma cell death.	Wada H	〃
Leuk Res Sep 25 ; [Epub ahead of print], '06	Clinical features and outcome of T-lineage acute lymphoblastic leukemia in adults : A low initial white blood cell count, as well as a high count predict decreased survival rates.	Wada H	〃
Int J Hematol 83(5) : 443-449, '06	Clinical features of polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan : retrospective analysis of a nationwide survey by the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group.	Sugihara T	〃
臨床血液 48(2) : 134-139, '07	十二指腸原発濾胞性リンパ腫8症例の臨床的検討	和田秀穂	〃
Micron 138 : 257-267, '06	Generation of muscle aquaporin 4 overexpressing transgenic mouse : Its characterization of RNA and protein levels including freeze-fracture study.	Sunada Y	内科学(神経)
FEBS Lett 580(18) : 4463-4468, '06	Bone marrow transplantation improves outcome in a mouse model of congenital muscular dystrophy.	Ohsawa Y	〃
J Gene Med 8(6) : 773-778, '06	VEGF 164 gene transfer by electroporation improves diabetic sensory neuropathy in mice.	Murakami T	〃
J Clin Invest 116(11) : 2924-2934, '06	Muscular atrophy of caveolin-3-deficient mice is rescued by myostatin inhibition.	Ohsawa Y	〃
Muscle Nerve 33(4) : 500-504, '06	Repetitive nerve stimulation of facial muscles in MuSK antibody-positive myasthenia gravis.	Hemmi S	〃
J Vasc Interv Radiol 17 : 723-726, '06	Carbon Dioxide-Enhanced Sonographically Guided Radiofrequency Ablation Plus Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma.	Kenji Ohmoto	内科学 (肝・胆・膵)



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cardiovasc Intervent Radiol 29 : 1111-1113, '06	Use of Intra-Arterial Carbon-Dioxide-Enhanced Ultrasonography for Guidance of Radiofrequency Ablation and Transcatheter Arterial Chemoembolization in Hepatocellular Carcinoma.	Kenji Ohmoto	内科学 (肝・胆・膵)
Hepato-Gastroenterology 53 : 651-654, '06	Thermal Ablation Therapy for Hepatocellular Carcinoma : Comparison between Radiofrequency Ablation and Percutaneous Microwave Coagulation Therapy.	Kenji Ohmoto	"
Journal of Clinical Ultrasound 36(2) : 78-81, '07	CO2-Enhanced Sonographically Guided Radiofrequency Ablation and Transcatheter Arterial Chemoembolization for Small Hepatocellular Carcinoma Poorly Defined on Conventional Sonography.	Kenji Ohmoto	"
J Nutr 136 : 821S-826S, '06	Aged garlic extract has potential suppressive effect on colorectal adenomas in humans.	K Haruma	内科学 (食道・胃腸)
Dig Liver Dis 38 : 303-307, '06	Anti-parietal cell antibody and serum pepsinogen assessment in screening for gastric carcinoma.	T Kamada	"
Scand J Gastroenterol 41 : 1320-1329, '06	Blockade of tumor necrosis factor- $\alpha$ -converting enzyme improves experimental small intestinal damage by decreasing matrix metalloproteinase-3 production in rats.	K Tarumi	"
J Gastroenterol Hepatol 21 : 837-841, '06	Surface structure of antral gastric mucosa represents the status of histologic gastritis : fundamental evidence for the evaluation of antral gastritis by magnifying endoscopy.	K Haruma	"
Scand J Gastroenterol 41 : 856-861, '06	Real-time visualization and quantitation of canine gastric mucosal blood flow by contrast-enhanced ultrasonography.	K Haruma	"
Dig Endosc 18 : 79-83, '06	Nodular gastritis and gastric cancer.	T Kamada	"
J Gastroenterol Hepatol 21 : 258-261, '06	Evaluation of endoscopic and histological findings in Helicobacter pylori-positive Japanese young adults.	T Kamada	"
J Gastroenterol Hepatol 21 : 98-102, '06	Endoscopic characteristics and Helicobacter pylori infection in NSAID-associated gastric ulcer.	T Kamada	"
Dig Endosc 19 : 32-35, '07	Can dental treatment be the infection route of H. pylori transmission in adults? three cases of acute gastric mucosal lesions after dental treatment.	T Kamada	"
J Am Soc Echocardiogr. 19(7) : 914-918, '06	Rate of progression of valvular aortic stenosis in patients underfoing dialysis.	Kume T	内科学(循環器)
Am J Cardiol. 15 ; 97(12) : 1713-1717, '06	Assessment of coronary arterial thrombus by optical coherence tomography.	Kume T	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Cardiol. 15 ; 97(8) : 1172-1175, '06	Assessment of coronary arterial plaque by optical coherence tomography.	Kume T	内科学(循環器)
血圧 13(4) : 392-397, '06	【慢性腎臓病(CKD)と心血管リスク】 CKDの病態 酸化ストレス、NO、炎症	柏原直樹	内科学(腎)
腎と透析 61(別冊 腹膜透析2006) : 30-34, '06	酸化ストレスによる腹膜機能低下活性酸素と一酸化窒素の相互関係に着目した治療戦略	佐々木環	〃
腎とフリーラジカル 第8集 : 119-124, '06	腹膜機能障害における活性酸素(ROS)・一酸化窒素(NO)不均衡の関与	十倉健彦	〃
Proc Natl Acad Sci USA 104(7) : 2331-6, '07	Amelioration of progressive renal injury by genetic manipulation of Klotho gene.	Haruna Y	〃
Annual Review 腎臓 2007 24-28, '07	進行性腎障害におけるklotho遺伝子の関与	春名克祐	〃
Diab. Re. Clin. Pract 73(1) : 29-34, '06	Plasma lipid levels and nutritional intake in childhood-and adolescence-onset type 1 diabetic patients.	Kaku K	内科学 (内分泌・糖尿病)
Diabetologia 50(4) : 980-984, '07	Replication study for the association of TCF7L2 with susceptibility to type 2 diabetes in a Japanese population.	Kaku K	〃
Pediatr Internat 48(3) : 245-249, '06	Characteristics of facial nerve palsy during childhood in Japan : frequency of varicella-zoster virus association.	Ogita S	小児科学1
IVR会誌 21(1) : 13-15, '06	【IVR医に必要な保険診療と包括医療の基礎知識】IVR診療に関する包括評価(DPC)の現状(大学附属病院)	今井茂樹	放射線医学 (画像診断学)
IVR会誌 21(4) : 375-379, '06	血管腫・血管奇形の分類と治療戦略	今井茂樹	〃
Interventional Radiology 21(4) : 413-417, '06	【血管腫・血管奇形に対するIVR 診断から外科的治療まで、その対応と限界】エタノールを用いたIVR.	東 浩樹	〃
JVIR 17 : 1797-1802, '06	Evaluation of trisacryl gelatin microsphere embolization with monochromatic X rays : Comparison with polyvinyl alcohol particles.	Akira Yamamoto	〃
Cancer Res. 66(7) : 3747-3753, '06	Improvement of the tumor-suppressive effect of boron neutron capture therapy for amelanotic melanoma by intratumoral injection of the tyrosinase gene.	Hiratsuka J	放射線医学 (治療)
12 <sup>th</sup> International Congress on Neutron Capture Therapy (ICNCT-12) : 7-9, '06	First clinical trial of boron neutron capture therapy for thyroid cancer.	Hiratsuka J	〃
12 <sup>th</sup> International Congress on Neutron Capture Therapy (ICNCT-12) : 5-6, '06	Using BPA alone for boron neutron capture therapy of recurrent head and neck malignancies.	Hiratsuka J	〃
Bone 38 : 708-713, '06	Side-to-side differences in cortical bone mineral density of tibiae in young male athletes.	Sone T	放射線医学 (核医学)

計 17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Bone Miner Metab 24 : 219-225, '06	The sample size required for intervention studies on fracture prevention can be detected by using a bone resorption marker in the inclusion criteria : prospective study of a subset of the Nagano Cohort, on behalf of the Adequate Treatment of Osteoporosis (A-TOP) Research Group.	Fukunaga M	放射線医学 (核医学)
Ann Nucl Med 20 : 589-595, '06	Measurement of regional blood flow with $^{123}\text{I}$ -IMP using one -point venous blood sampling and causality analysis : evaluation by comparison with conventional continuous arterial blood sampling.	Sone T	〃
Br J Radiol 79 : e126-128, '06	MRI appearance of primary giant ovarian leiomyoma in a hysterectomised woman.	Sone T	〃
J Nutr Sci Vitaminol 52 : 337-346, '06	Long-term administration of 4G- $\beta$ -D-galactosylsucrose (lactosucrose) enhances intestinal calcium absorption in young women : a randomized, placebo-controlled 96-wk study.	Fukunaga M	〃
日本血管外科学会雑誌 16(1) : 23-29, '07	閉塞性動脈硬化症の長期生命予後からみた大動脈腸骨動脈病変に対する術式別の適応と成績	正木 久男	外科学 (胸部心臓血管)
脈管学 46(5) : 543-547, '06	エビデンスに基づく閉塞性動脈硬化症の治療戦略 トレッドミル歩行によるABPI検査を用いた閉塞性動脈硬化症の間歇性跛行の治療戦略	正木 久男	〃
Am J Hematol 81(7) : 560-561, '06	Implantable cardioverter defibrillator therapy in a patient with cardiac amyloidosis.	Hamanaka S	〃
Int J Clin Oncol 11(6) : 461-466, '06	Inflammatory Pseudotumor of the lung : clinicopathological analysis in seven adult patients.	Nakata M	〃
Cancer Chemotherapy and Pharmacology 58 : 460-470, '06	Additive antitumor effects of gefitinib and imatinib on anaplastic thyroid cancer cells.	Kurebayashi J	外科学 (乳腺甲状腺)
Cancer Chemotherapy and Pharmacology 59 : 515-525, '07	Additive antitumor effect of concurrent treatment of 4-hydroxy tamoxifen with 5-fluorouracil but not with doxorubicin in estrogen receptor-positive breast cancer cells.	Kurebayashi J	〃
Kawasaki Med J 33(1) : 23-33, '07	The relationship between Wilms'tumor 1 (WT1) and paired box 8 (Pax-8) protein expressions in papillary and anaplastic thyroid carcinomas.	Katsuhiro Tanaka	〃
癌と化学療法 33(6) : 767-771, '06	進行・再発乳癌に対するbiweekly-Docetaxelと5'-DFURの併用化学療法における安全性と効果の検討(第1相試験)	池田 雅彦	〃
癌と化学療法 33(10) : 1431-1435, '06	進行・再発乳癌に対するCapecitabineの治療効果—特に無増悪期間(TTP)を中心に	椎木 滋雄	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児外科学会雑誌 42(4): 516-519, '06	後腹膜鏡補助下に手術を行った下大静脈後尿管の1小児例	中川 賀清	外科学(小児)
日本小児放射線学会雑誌 22(2): 129-132, '06	食道閉鎖症に合併した先天性食道狭窄症の2例 低圧バルンによる食道狭窄部描出法	中川 賀清	〃
日本小児外科学会雑誌 42(6): 651-655, '06	極低出生体重児の腸穿孔術後に広範囲の結腸、直腸閉鎖をきたした1例	中川 賀清	〃
中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌 49(5): 831-832, '06	手の皮膚欠損を伴う控滅創に対する早期運動療法を取り入れたVacuum-Assisted Closureによる治療経験	石坂 直也	整形外科
中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌 49(3): 547-548, '06	外傷性四肢骨折術後に早期から超音波骨折治療器を用いた治療経験	角南 浩史	〃
Cancer Research 66(7): 3747-3753, '06	Improvement of the tumor-suppressive effect of boron neutron capture therapy for amelanotic melanoma by intratumoral injection of the tyrosinase gene.	Uno Masako	耳鼻咽喉科学
Advances in Neutron Therapy 2006 18-20, '06	Successful BNCT for patients with cutaneous and mucosal melanomas: Report of 4 cases.	Aihara Teruhito	〃
Head Neck 28(9): 850-855, '06	First clinical case of boron neutron capture therapy for head and neck malignancies using <sup>18</sup> F-BPA PET.	Aihara Teruhito	〃
Advances in Neutron Capture Therapy 2006 5-6, '06	Using BPA alone for boron neutron therapy of recurrent head and neck malignancies.	Aihara Teruhito	〃
Advances in Neutron Capture Therapy 2006 164-166, '06	Estimation of intratumor boron concentration of boron neutron capture therapy for head and neck tumors using <sup>18</sup> FBPA-PET image.	Aihara Teruhito	〃
耳鼻咽喉科臨床 99(12): 1017-1022, '06	鼻腔悪性黒色腫症例に対する硼素中性子捕捉療法	粟飯原 輝人	〃
J Neurol Sci 255: 90-94, '06	Hyperglycemia independently increases the risk of early death in acute spontaneous intracerebral hemorrhage.	Kimura K	脳卒中医学
J Neurol Neurosur PS 77(12): 1336-1339, '06	Ischaemic stroke with malignancy may be frequently caused by paradoxical embolism.	Yasuyuki Iguchi	〃
J Neuroimaging 16(3): 278-280, '06	Transcranial Doppler and carotid duplex ultrasonography findings in bow hunter's syndrome.	Yasuyuki Iguchi	〃
European J Neurol 13(8): e6, '06	Dysarthria-clumsy hand syndrome originating in the corona radiata: A case report.	Yasuyuki Iguchi	〃
J Clin Neurosci 14(3): 273-275, '06	Diffusion-weighted MR images in patient with neuropsychiatric lupus: A case report.	Yasuyuki Iguchi	〃
J Neurol Sci 254(1-2): 39-43, '07	In-hospital onset ischemic stroke may be associated with atrial fibrillation and right-to-left shunt.	Yasuyuki Iguchi	〃

計 17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of the Neurological Sciences 252(1) : 92-95, '07	Spontaneous recanalization at sub-acute phase of stroke may be dramatic.	Yasuyuki Iguchi	脳卒中医学
J Neurol Neurosurg Psychiatry 78(1) : 81, '07	A case of brain embolism during catheter embolization of head arteriovenous malformation. What is the mechanism of stroke?	Yasuyuki Iguchi	〃
European J Neurol 13(9) : e2-3, '06	Acute confusional state caused by a large number of small brain infarcts.	Kazumi Kimura	〃
Stroke Inpress, '07	Mobile aortic plaques are a cause of multiple brain infarcts seen on diffusion-weighted imaging.	Kazumi Kimura	〃
European J Neurol 13(9) : e2-3, '06	Acute confusional state caused by a large number of small brain infarcts.	Kazumi Kimura	〃
Neurology 68(7) : 528-531, '06	Right-to-left shunt may contribute to lacunar stroke patients without hypertension and diabetes.	Yasuyuki Iguchi	〃
神経内科 65(5) : 505-507, '06	亜急性脳症を呈したSjögren症候群	芝崎 謙作	〃
臨床神経学 46(8) : 540-543, '06	軸索機能障害の関与が考えられる高血糖性“脱髄性”末梢神経障害の1例	寺澤 由佳	〃
国立医療学会誌 60(8) : 510-512, '06	正常圧水頭症と大脳皮質基底核変性症を合併していると考えられた1例	寺澤 由佳	〃
臨床神経 46(5) : 339-341, '06	難知性吃逆、嘔気、失神を呈し、延髄被蓋部病変をみとめた多発性硬化症の1例	芝崎 謙作	〃
脳卒中 28(1) : 297-300, '06	塞栓性脳底動脈閉塞によりたこつぼ型心筋症を呈した1例	井上 剛	〃
脳卒中 28(3) : 351-359, '06	担癌患者における脳梗塞の臨床的特徴：凝血学的マーカーの有用性	渡邊 雅男	〃
脳卒中 28(4) : 654-657, '06	急性期脳卒中の超早期受け入れ体制を如何に構築するか	木村 和美	〃
臨床神経 47(1) : 42-45, '07	くも膜下出血を契機に診断された脳アミロイドアンギオパチーの1例	芝崎 謙作	〃
臨床神経学 47(5) : 231-233, '07	共同偏見と側方注視麻痺を呈した橋梗塞の1例	植村 順一	〃
臨床神経 47(5) : 237-239, '07	後大脳動脈領域と前脈絡叢動脈領域に梗塞巣を呈した心原性脳塞栓症の1例	植村 順一	〃
J Clin Monit Comput. Dec ; 20(6) : 385-389, '06	Central venous pulse pressure analysis using an R-synchronized pressure measurement system.	Fujita Y	麻酔・集中治療医学
Blood 107 : 4554-4562, '06	Protein-tyrosine kinase Syk is required for pathogen engulfment in complement-mediated phagocytosis.	Tohyama K	検査診断学 (病態解析)
臨床病理 54(10) : 1003-1007, '06	中毒分析が有用であったチョウセンアサガオ中毒の一症例について	通山 薫	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Haematologica-The Hematology journal 91(5) : 613-619, '06	The mechanisms of Vitamin K2-induced apoptosis of myeloma cells.	Tsujioka T	検査診断学 (病態解析)
Am Heart J. 152(4) : 755.1-4, '06	Measurement of the thickness of the fibrous cap by optical coherence tomography.	Sadahira Y	病理学
Am J Cardiol. 97(12) : 1713-1717, '06	Assessment of coronary arterial thrombus by optical coherence tomography.	Sadahira Y	//
Am J Cardiol. 97(8) : 1172-1175, '06	Assessment of coronary arterial plaque by optical coherence tomography.	Sadahira Y	//

計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 97

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 角 田 司
管理担当者氏名	病院事務部長 難 波 徹

		保 管 場 所	分 類 方 法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		病院事務部医事課 医学資料部中央病歴室	(1)外来診療録:一元番号法 (2)入院診療録:一連一元番号法 (3)X線フィルム:一元番号法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課 病院事務部病院庶務課		
	高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課		
	高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課		
	閲覧実績	病院事務部医事課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部		
	確規 保則 の第 9 条 の 2 3 及 び 第 1 1 条 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況		病院事務部病院庶務課		
医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部		
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 松田 貢、医事課長 小林宏規
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課(応接室)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	49.5%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		10,000人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,042人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,683人
	D：初診の患者の数		35,854人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



## 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専任 (2)名 兼任 (2)名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) インシデント報告書に対するリアルタイムな対応</li> <li>(2) 医療安全管理マニュアルの改正とその周知徹底</li> <li>(3) 教育・研修の立案</li> <li>(4) 各部署内の医療安全パトロール(ワーキンググループ・医療安全管理委員会が月毎に担当)</li> <li>(5) 医療安全管理部のホームページ作成(年度毎に見直す)</li> <li>(6) 医療事故分析と対策をニューズレター啓発(毎月2回発行)</li> <li>(7) 医療安全管理推進週間(医療安全啓発ポスターを作成して期間中は院内に掲示する。)</li> <li>(8) 年度用医療安全カレンダーの作成(各ワーキンググループの手作りカレンダー)</li> <li>(9) 私立医科大学病院相互チェックが開始(当院を含む中国・九州ブロック4校でラウンドを行う)</li> </ul> </li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <p>当院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。</p> </li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 34 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <p>医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「病院医療委員会」を設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院医療安全管理委員会：22回開催 <p>病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。</p> </li> <li>(2) リスクマネージャー連絡会議：10回開催 <p>医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。</p> </li> <li>(3) 病院医療委員会：2回開催 <p>医療事故が発生した場合、その対応方法を検討する。</p> </li> </ul> </li> </ul>	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 20 回
<p>・ 研修の主な内容:</p> <p>当院の安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底するため、平成18年度は次の計画をもって運営した。</p> <p>(1) 4月:リスクマネージャー連絡会議:64人参加、褥瘡に関する説明会:581人参加(全職員対象) 「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」「酸素ボンベの取扱い」ビデオ上映会</p> <p>(2) 5月:リスクマネージャー連絡会議:58人参加、当院における安全管理とアクシデント分析:712人参加(全職員対象) 「医療安全管理委員会報告」、「リスクマネージャーの交替」、「平成17年度各ワーキング1年間の活動報告会」</p> <p>(3) 6月:リスクマネージャー連絡会議:71人参加、院内の結核を考える:739人参加(全職員対象)</p> <p>(4) 7月:リスクマネージャー連絡会議:66名参加「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」夏期セミナー「医療と法律」:88人参加</p> <p>(5) 9月:リスクマネージャー連絡会議:68名参加、針刺し事故防止とエビネット報告書:615人参加(全職員対象)</p> <p>(6) 10月:リスクマネージャー連絡会議:71人参加、ずれ力からみた褥瘡の臨床と治療:550人参加(全職員対象)、「PET装置の原理と概要」:509人参加(全職員対象)</p> <p>(7) 11月:リスクマネージャー連絡会議:66人参加、苦情受付にみる職員のマナーについて:821人参加(全職員対象) 医療安全管理委員会報告「医療安全パトロールの結果報告」</p> <p>(8) 1月:リスクマネージャー連絡会議:67人参加、個人情報保護について:738人参加(全職員対象) 医療安全管理委員会報告</p> <p>(9) 2月:リスクマネージャー連絡会議:70人参加</p> <p>(10) 3月:リスクマネージャー連絡会議:67人参加、安全で快適な医療を目指して地方小病院のささやかな取り組み:738人参加(全職員対象) 医療安全管理委員会報告「医療安全パトロールの結果報告」</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <p>(1) ニュースレターによる情報提供(2回/月発行)</p> <p>(2) インシデント防止のため、必要時に注意・啓発目的でDVD(指導・教育用)・標語・ポスターを作製する</p> <p>(3) 医療安全パトロールからの情報提供(医療マニュアルへ予防・対策案を追加記載する)</p>	